

地域実践研究成果の紹介

インクルーシブ教育システム構築 『共に学ぶ』教育スタートモデル（試案） 宮城県における「インクルーシブ教育システム構築・ 『共に学ぶ』教育スタートモデル（試案）」の作成について

特徴

インクルーシブ教育システム構築『共に学ぶ』教育スタートモデル(試案)は、小学校の通常の学級において、インクルーシブ教育システム構築を目指す取組を始めるに当たり、何から始めたら良いかを示す目的で作られています。

取り組み内容へ意識すべき観点を5つ挙げ、それぞれ観点から取組内容を評価する事で、小学校でのインクルーシブ教育システムの構築に取り掛かりやすくなります。

活用していただきたい方

- ・ 小学校・中学校の管理職の先生
- ・ 特別支援教育コーディネーターの先生
- ・ 交流先の通常の学級の先生

研究成果の活用

1. 「共に学ぶ」教育推進 担当者・担当分掌を決めます。
2. 取り組む内容を話し合い、欄に書き込みます。
(例:ユニバーサルデザインによる授業づくり研修会)
3. 取組内容毎に、現在の取組状況を◎、○などで記入します。
4. 取組1年後にどのような構築具合かを記入します。

学校インクルーシブ教育システム構築・『共に学ぶ』教育スタート計画

「共に学ぶ」教育推進 担当者・担当分掌 ()	教員の理解・ 意識変容	学習意欲・ 態度改善	子供への 理解・尊重	保護者への 連携	地域への 連携
①					
②					
③					

一年後の目標

①
②
③
④

取組内容で意識すべき観点が5つに精選されていることで、取組で留意すべき点が明確になり、取り掛かりやすくなります。また、観点は評価観点ともなりますので、取組の状況の評価が明確になります。



研究の内容と主な成果

本研究は、小学校で、インクルーシブ教育システム構築を目指す取組を始めるためにどのように取り掛かれば良いかを提案することを目的に行われました。研究では、以下を行っています。

- ・ 小学校への訪問による効果的な取組内容の収集
- ・ 取組内容一覧の作成：収集した取組内容を考察し、取り組むべき内容を整理
- ・ 教員のインクルーシブ教育システム構築に対する意識調査
- ・ 「インクルーシブ教育システム構築・『共に学ぶ』教育スタートモデル(試案)」を構想し、リーフレットを作成

「『共に学ぶ』教育を推進するための取組内容一覧

「共に学ぶ」教育を推進するための取組（仮）内容	
1	支援を要する子供の実態把握と情報交換(共通理解)、ケース会議
2	個別の指導計画・個別の教育支援計画(合理的配慮を含む)の作成
3	ユニバーサルデザインによる授業づくり・学級づくり
4	共同研究
5	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善
6	学力補充の取組
7	校内体制の整備：多様な学びの場の設置(特別支援学級、通級による指導)
8	外部との引継とシステムづくり
9	校内の引継とシステムづくり
10	関係機関との連携とシステムづくり
11	地域の特別支援学校との交流及び共同学習
12	校内での交流及び共同学習
13	自立活動に関する授業づくり
14	特別支援教育、インクルーシブ教育に関する研修会
15	障害理解・実態把握に関する研修会
16	共生社会、インクルーシブ教育システム構築、合理的配慮等に関する研修会
17	指導方法に関する研修会(自立活動、ユニバーサルデザイン等)
18	授業研究
19	保護者との連携

スタートモデル(試案)を記入する際に、取組内容一覧を参考にして、学校に必要な取組内容を考えると、話し合いが円滑に進められます。

インクルーシブ教育システム構築との関連性

1. 体制整備 : (1-1)校内の支援に係る体制整備
4. 指導体制 : (4-1)指導体制の整備・充実
7. 研 修 : (7-1)校内における専門性の向上のための取組

*インクルーシブ教育システム構築の観点は、国立特別支援教育総合研究所横断的研究「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」で検討したインクルCOMPASSの観点を規準にしています。

詳しい内容
は報告書で
ご覧下さい

地域実践研究 インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究 報告書

宮城県における「インクルーシブ教育システム構築・『共に学ぶ』教育スタートモデル(試案)」の作成について(宮城県)

p.225～235